

# レタス生育 AI で予測

## トツプリバーで本格運用

日立ソリューションズ東日本

日立ソリューションズ

日数を自動算出する。

東日本（小玉陽一郎社長、仙台市青葉区）は、同社開発の「AIを活用した生育予測システム」がレタス生産を行う「トツプリバー」（嶋崎秀樹社長、長野県御代田町）の御代田農場および富士見農場において、今年度から本格運用されたと発表した。

実際の定植日と生育予測による収穫予定日がガントチャート形式で一覽表示できるため、生育予測による出荷量の見通しが目でわかり、将来の過不足の情報を把握できるようになった。

同システムは、過去2年間の気象メッシュ情報（約1<sup>km</sup>四方の気象データ）と生育日数のデータ（約1<sup>ha</sup>）を用い、気象の変化による生育日数の変化および生育に影響を与えるパラメータをディープラーニングで学習させることにより、時期ごとの生育

予測精度（収穫予測日と実際に収穫した日の差、4月～6月）は、生産者の経験則で土3・1日となったが、同システムでは土1・0日という高精度を実現した。

同システムの本格導入は、農水省が公募する「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の一環として行われた実証（2019年度、20年

度）を経てのもの。トツプリバーでは、同システムの導入で「高い精度で予測結果が出ており、従来の経験と勘による予測や、生産物の目視による予測等を組み合わせ、非常に高い精度で収穫の予測ができる状態になった」と評価する。

日立ソリューションズ東日本では、同システムに加えて、計画的な生産を支える生産マネージメント技術、販売先とのスムーズな需給調整を実現するクラウドサービス、生産現場で導入しやすい農業情報登録システム、農業企業の従業員育成を支える人材育成システム、さらにはこれらを統合して提供し、企業の農業の実現を支援するプラットフォームの構築をめざす。